

## 平成26年度第1回愛知県健康づくり推進協議会議事要約

- 【日時】平成26年6月3日(火)午後3時から午後4時30分  
【会場】愛知県議会議事堂5階大会議室  
【委員】出席 14名、欠席7名  
【事務局】16名  
【傍聴者】なし  
【内容】

- 1 あいさつ（愛知県健康福祉部保健医療局長 加藤 昌弘）
  - 本協議会は、健康づくりを、疾病対策から健やかな暮らしを支える社会環境整備まで広い観点で、総合的に推進するため開催するものである。
  - 少子高齢化により、社会保障費等の負担がますます深刻になってきている中で、生涯を通じた健康づくりにより、県民が健康でいきいきと過ごすことができる期間を延ばすとともに、行政は関係機関と連携し、県民が健康づくりに気軽に取り組める施策や環境整備を図る事が大変重要な役割となる。
  - 本県では平成25年3月に「健康日本21あいち新計画」「愛知県がん対策推進計画(第2期)」「愛知県歯科口腔保健基本計画」の3つの計画を策定し、新しい方向性を踏まえ、健康づくり施策を推進している。社会全体で健康を支える仕組みを作り、本県が目指す「健康長寿あいち」を実現するため、今後の健康づくり事業に何が必要かご協議いただきたい。
- 2 議題 「健康づくり関連計画及び健康づくり施策の推進について」
  - ・「健康日本21あいち新計画」の推進について
  - ・「愛知県がん対策推進計画(第2期)」の推進について
  - ・「愛知県歯科口腔保健基本計画」の推進について
- 3 報告事項 「医療審議会の組織見直し(案)」について

<主な意見>

- ・最近の国の動きとしては、昨年6月に「日本再興戦略」が閣議決定され、テーマとして健康寿命の延伸を掲げた。健康寿命延伸分野における様々な製品やサービスの実態を把握し、課題等への対応策を検討するため「次世代ヘルスケア産業協議会」を設置した。レセプト・検診情報のデータ分析に基づく効果的・効率的な保健事業をPDCAサイクルで実施する「データヘルス計画」を推進しているので、県としても参考にしてほしい。
- ・健康寿命だけでなく労働寿命の延伸が、生涯現役社会の実現に繋がると考えられる。
- ・がん患者の在宅治療移行について、団塊の世代ががん年齢に入っている。これにより終末の看取りで病院のベッドが満員になり急性の患者に使用できなくなるため、今後在宅移行は必須である。今回の計画は細やかにがん患者をサポートする試みが含まれている。県は企業に協力を仰ぎ、従来手薄であった患者の就労をサポートするよう啓発していかなければならない。
- ・データヘルスによりがんに関するデータ抽出が可能である。今後がんが減るような予防対策を、保険者が取るような呼びかけ・情報提供等が必要と考える。
- ・高齢化社会の中で、在宅治療への移行がこれからますます重要な課題であり求められるものであるため、がん患者の自宅における死亡割合の目標8.2%はもう少し高く目標を立てても良いと思われる。
- ・胃・肺・肝臓がん等のがん検診受診の状況について、受診率の目標は高いものの一向に数値が上がっていない状況である。今後検診を受診しやすい環境作りが課題であり、特に働く女性への配慮が必要になってくると思われる。
- ・検診受診率を高める方法については工夫が必要であり、がん対策部会でも協議を行う中で、現実的なものから取り入れていかなければいけないと考えている。
- ・要介護の方の歯科医療体制整備について、昨年度から配備されている歯科専門の健診車（歯〜とぴあ）を今後の口腔管理の維持に活用していきたい。
- ・健康日本21あいち新計画の事業で、肥満・糖尿病を中心とした学童期から思春期の生活習慣病予防研修を行うとあるが、対象を歯周病に広げ、学童期から歯周病に関する知識を深める取組を行うと良い。
- ・愛知県は歯科口腔保健基本計画の中で、いわゆる医科歯科連携を糖尿病対策として早くから取り組んでいるが、医科歯科連携の実績は把握され実効性のあるものになっているのか。真に医科歯科連携が重要であれば診療報酬をつけるべきではないか。